



山形県遊佐町の海岸の現状

海ゴミ・サイエンスカフェ

とき 10月16日(日) 15時30分

ところ イオン山形南店 1階センターコート
海の環境・海ゴミパネル展会場

講演者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授

磯辺 篤彦 氏



プロフィール

専門は主に陸棚・沿岸域での海洋物理学。
環境省・環境研究総合推進費事業、『海ゴミ・プロジェクト』統括責任者。
日本海洋学会(JOS; 評議員)・日本海洋学会/沿岸海洋研究会(委員会委員)
米国地球物理連合(AGU;所属)・米国気象学会(AMS;所属)

講演「科学の目で見た海洋(海岸漂着)ごみ問題〜

海洋ごみの海域移動と漂着ごみの分析及び溶出試験結果について」

○海ゴミ・プロジェクト研究チームとは? check! <http://www.icataquo.jp/umigomi/>
この事業は、「環境省」の「環境研究総合推進費」で行われています。(「B-1007:海ゴミによる化学汚染物質輸送の実態解明とリスク低減に向けた戦略的環境教育の展開」)

この研究では、複数海岸に設置したウェブカメラ画像を元に季節、天候、時刻によるゴミ漂着量の変化をデータ化し、加えて海流や漂流物のコンピュータ・シミュレーションにより、東アジアにおける、発生源から漂着海岸までの海ゴミの移動を調査します。さらには海岸漂着ゴミに含有・吸着した化学汚染物質(有害重金属や残留性有機汚染物質[POPs]など)の分析調査を行い、ゴミを介した化学汚染物質の輸送の実態を調査します。また、地域住民と地域行政、そしてNPOや研究者が参加するサイエンスカフェによって、研究成果を地域活動と行政の取り組みに活かすとともに、継続的な海ゴミ調査・清掃活動体制の構築を目指していきます。

○海ゴミ・サイエンスカフェとは?

深刻化する海洋ごみ問題への地域における取り組みには、海洋ごみ問題に高い意識を持った地域リーダーの育成が不可欠です。そのために、科学はどのように支援できるのか、地域住民と行政の意識改革を通じての地域環境力(H18年環境基本計画)の向上に科学が果たせる役割は何か。

海洋ごみ問題に関する科学研究成果の地域への普及により海洋ごみ対策の促進が図られることを目指し、地域住民、NGO/NPO、事業者、行政関係者を対象に、海洋ごみ問題に関する環境学習の場となる「海ゴミ・サイエンスカフェ」を、国内の数箇所で開催しています。

主催 PJ統括責任者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授 磯辺 篤彦
テーマ責任者 九州大学大学院工学研究院准教授 清野 聡子
テーマ所管者 一般社団法人 JEAN(東京都国分寺市)
問合せ先 特定非営利活動法人 パートナースhipオフィス (TEL:FAX 0234 26 2381)
協力 イオンリテール株式会社 イオン山形南店

